

岡山県「スマート農業技術開発プラットフォーム」に関するQA（未定稿）

R5(2023)年2月
産学連携推進課

1 岡山県「スマート農業技術開発プラットフォーム」について

① 岡山県「スマート農業技術開発プラットフォーム」とは、どのような組織ですか？

岡山県「スマート農業技術開発プラットフォーム（以下「プラットフォーム」という）」は、平成28(2016)年に設立した農業機械技術開発プラットフォームを令和2(2020)年5月に再編した、産学官の連携組織です。

なお、この組織におけるプラットフォームとは、企業や大学などを「結び付ける場」を意味しています。

② プラットフォームの目的は何ですか？

岡山県と「もの作り企業」や「大学」、「生産者団体（JA）」などが連携し、スマート農業機械などの開発や改良を通じて、県内農林水産業における生産現場の課題解決を図ることを目的としています。

③ なぜ、「農業機械」から「スマート農業」に変更したのですか？

ロボット技術やIoT技術などを活用したスマート農業を推進するため、令和2(2020)年5月に運営要領の一部改正を行うとともに、名称を「スマート農業技術開発プラットフォーム」としました。

④ プラットフォームでは、どのような活動を行っていますか？

スマート農業技術について、効果的かつ効率的、持続的に開発するため、生産現場の課題の把握や、会員が参集する情報交換会、生産現場を訪問する部門別交流（プラカフェ）、デジタル人材を育成するDXセミナーなどの活動を行っています。

さらに、研究が必要な課題については、会員間のマッチング調査を通じて、コンソーシアム（共同研究体）の構築を支援しています。

⑤ プラットフォームには、どのような企業が会員となっていますか？

令和5年1月現在、主に県内に本社や事業所を置く33の農業機械の製造業者や情報サービス業者が会員となっています。また、岡山大学や農研機構西日本農業研究センターなども会員となっています。詳しくは、プラットフォームのHPをご覧ください。

プラットフォームのHP：<https://www.pref.okayama.jp/page/659050.html>



⑥プラットフォームのアドバイザーは、どのようなことを行うのですか？

プラットフォームでは、農業ロボットやリモートセンシング、外部資金の獲得など、協力機関の専門家の方がアドバイザーとなっており、情報交換会などにおいて助言指導をいただいています。

⑦プラットフォームに加入するには、どうすれば良いですか？

プラットフォーム活動の目的に賛同する個人、企業、団体の方は、加入できます。加入を希望される方は、事務局に入会申込書を提出してください。入会申込書は、プラットフォームのHPからダウンロードできます（押印不要）。なお、プラットフォームへの加入は、主に県内のもの作り企業を想定しています。

⑧県外の企業でもプラットフォームに加入することができますか？

会員間の情報交換や、コンソーシアム活動を円滑に行うため、原則として、県内に本社や事業所を置く、もの作り企業を想定しています。

⑨プラットフォームに加入する場合、費用は必要ですか。

費用（入会金や年会費）は、不要です。

⑩生産現場における課題は、どのように集めるのですか？

県内9カ所にある農業普及指導センター（以下「普及センター」という）職員が、生産者やJA職員との普及指導業務の中で課題を収集しています。

なお、普及センターでは、「水稻・麦・大豆」「野菜」「果樹」「花」で担当が分かれており、項目ごとに課題を把握することができます。

さらに、農業研究所の各研究室（作物・経営、果樹、野菜・花、環境、病虫、高冷地）においても課題の収集を行っています。

⑪会員との情報交換は、どのように行っています？

プラットフォーム活動を円滑に行うため、活動状況の報告や生産現場の課題について、情報共有と意見交換を行う情報交換会を年1回開催しています。さらに部門別交流（プラカフェ）などにおいても情報交換しています。

⑫コンソーシアムの活動実績を教えてください。

プラットフォームでは、過去に次のコンソーシアム活動を実施しています。

年度	コンソーシアム名 (関係企業等)	
H29 (2017)	静電噴口を用いた防除機器の開発 (みのる産業)	モモ果肉障害の非破壊検査技術の開発 (ヤンマー)

H30 (2018)		アスパラガスの健全葉量の数値化 (N T, T ドコモ)
R01 (2019)		
R02 (2020)		
R03 (2021)	収穫量自動集計秤の開発 (ワードシステム、津山高専)	水田の水位計改良 (ヘルヴェチア)
R04 (2022)		